

千里地理通信

関西大学地理学・地域環境学教室会報 第93号

Newsletter of Department of Geography and Regional Environment, Kansai University

Contents

Page 1 ……

巻頭随想

筒井由起乃

Page 2-3 ……

研究ノート

中国・京津冀地域におけるコンビニエンスストアの多様化に関する地理学的研究

肖 逸欣

Page 4 ……

卒業生だより

上野颯亜

Page 5 ……

1泊バス巡検報告

播磨の自然と人文

戸田咲良・中川涼介

Page 6-7 ……

2024年度

ベトナム研修

前谷駿輔

Page 7 ……

第7回千里地理学会案内

Page 8 ……

卒業論文及び修士論文一覧

教室だより

Page 9 ……

同窓会事務局ニュース

関大地理同窓会

令和6年度会計報告

秋の日帰り巡検のご案内

Page 10 ……

随想

学習指導要領改訂後の高等学校における地理歴史科教育の現状

岡森 啓

Page 5-9 ……

新専修生からのひと言

修了生からのひと言

この紙面上でみなさまに新任のご挨拶をさせていただいてから早一年がたちました。新しい環境に戸惑うこともありましたが、心温かい先生方と熱心な学生さんたちに助けられ、むしろその新鮮さを楽しむことができました。

この一年でもっとも感銘を受けたのは、1泊バス巡検、日帰り巡検、4泊5日の実習と年に3回もフィールドに出かけるという、地理学・地域環境学専修の学びの仕組みです。学生たちは、2年生の時に2回、3年生の時には3回、少なくとも計5回はフィールドで学ぶ機会を得ることになります。私も大学で地理学を専攻しましたが、授業としての巡検は1回だけではな

かったかと思います。フィールドで見て、聞いて、感じて、考えたことが、座学で得た知識と結びつき、徐々に花開いていくところを見られたことは、私にとっても大きな刺激となりました。

昨年度に関していえば、加えてもう1回、フィールドに出かける機会がありました。2年ぶりに実施したベトナム研修です。こちらは希望者のみでしたが、2回生から4回生までの計11名が参加してくれました。その内容については、別に報告がありますのでそちらに譲ることとし、ここでは研修に先立って実施されたベトナム人学生の受入れについて触れたいと思います。



巻頭随想

筒井由起乃

2025年2月19日から2月26日まで、ベトナム国家大学ハノイ理科大学地理学部の学生・院生8名と、引率教員3名の計11名が、関西大学の国際交流プログラムを利用して訪日しました。来日翌日には、実習室でセミナーを開催しました。黒木先生による日本の地事情についてのお話の後、ベトナム人学生が英語でベト

ナムをテーマに発表しました。自分たちがもうすぐ訪れる場所ということもあり、学生たちは熱心に話を聞いていました。昼食をとりながらの交流会や図書館の案内を通じて、少しずつ打ち解ける様子も見られました。

翌日からは、京都や奈良、大阪、神戸と近畿圏で実施されたベトナム側の巡検で、彼らが分担して案内役をしてくれました。京都を案内した学生たちは、ラッシュの前に移動した方がよい、と朝6時ホテル出発を提案しました。これには普段から朝の早いベトナム人も驚いていましたが、そのために5時に家を出る学生もいると聞いてさらに目を丸くしていました。

こうしたホスピタリティに、ベトナム人学生はとても感激し、日本にも、関西大学にも、また来たい、と言って帰国しました。その約10日後、ハノイで再会すると、今度は彼らが旧市街や郊外の伝統文化村を案内してくれました。我々がハノイを離れる前夜に、わざわざホテルまでお土産を持ってきてくれた学生がいたかと思えば、「生涯の親友ができた」と涙を浮かべた学生もいました。

学生たちの可能性は無限大だと改めて感じました。それを少しでも広げるために、微力ながら尽くしていきたいと思いつつ、その可能性から元気をもらっている日々です。

(ついつい ゆきの：本学教授)

中国・京津冀地域におけるコンビニエンスストアの多様化に関する地理学的研究

肖 逸欣

1. はじめに

コンビニエンスストアは、日々の生活に密着した小売業態として都市部を中心に普及してきた。一方で、その出店は一様ではなく、地域ごとに大きな違いが見られる。特に中国では、都市の発展段階の差異や多様な消費文化を背景に、コンビニの「多様化」が急速に進んでいる。

修士論文では、コンビニに関する日中の先行研究を整理したうえで、中国におけるコンビニの発展過程と業態の類型を把握し、出店傾向や地域的な多様性を明らかにした。北京市・天津市・河北省から成る京津冀地域を研究対象地域として、大都市、郊外都市、中小都市といった異なる都市構造に着目し、地域特性と小売形態の関係性を検討した。

本研究は、京津冀地域におけるコンビニの業態と立地の多様性を明らかにすることを目的とする。日中比較および便利蜂中関村店の事例を通じて、地域特性との関係を考察した。

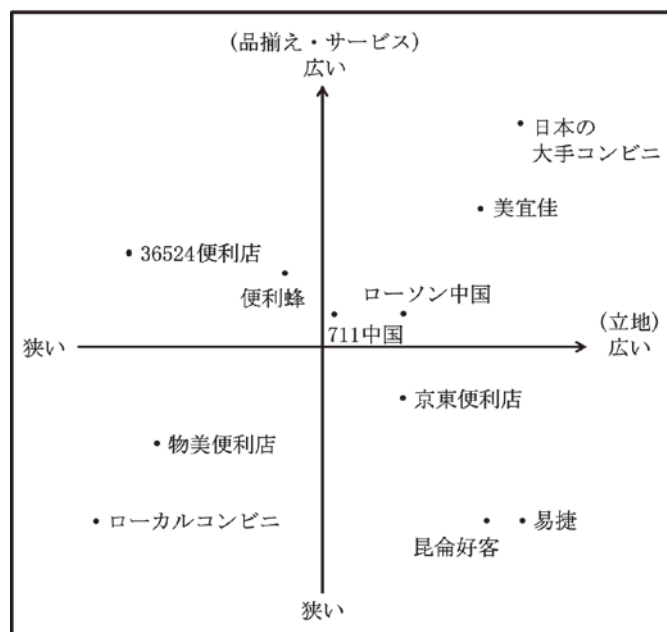


図1 コンビニチェーンの比較図
(聞き取り調査等を基に各チェーンを位置付け)

2. 京津冀地域におけるコンビニの分類

2022年のデータによると、京津冀地区のコンビニは以下の種類に分けられる。

日系コンビニは、セブンイレブン、ローソン、ファミリーマートを指す。日系コンビニは、中国では主に大都市の都心部を中心に展開している。特にローソンは、メガフランチャイズ方式を採用し、中小都市への進出を積極的に進めている点が特徴的である。

ガソリンスタンド内の便利店は、ガソリンスタンド内にあるコンビニである。例として、易捷や昆仑好客が挙げられる。

電子商取引（EC）系列コンビニは、電子商取引企業が展開するコンビニである。代表例として京東便利店がある。

スーパー連携型コンビニは、スーパー企業が展開するコンビニであり、物美便利店が該当する。

また、中国本土のコンビニチェーンを対象にして分類した場合、次の3つのカテゴリに分けることができる。

全国展開型コンビニチェーンは、中国全国をターゲットに展開しているコンビニチェーンである。例として、便利蜂や美宜佳がある。

リージョナルコンビニチェーンは、特定の省のみで展開しているコンビニチェーンであり、36524 便利店がその一例である。

ローカルコンビニチェーンは、特定の市・県のみで展開しているコンビニチェーンであり、例として好日子が挙げられる。

図1は、日本と中国におけるコンビニチェーンの比較図である。

日本では、大手チェーンによるフランチャイズ方式が主流であり、立地・品揃え・サービスの範囲が全国的に均質で広いことが特徴である。一定の広さを持つ標準化された店舗が多く、豊富な商品と多機能なサービスを備え、「多様な便利」を提供している。

一方、中国では、大手から中小規模まで多様なチェーンが存在し、同様にフランチャイズ方式を採用しているが、チェーンごとの展開規模には大きな差がある。小規模な店舗が多く、提供される「便利」の範囲も限られている傾向にある。取り扱う商品も日常的な飲食物や日用品に絞られており、「限られた便利」にとどまる場合が多い。また、ネット通販との連携は中国独自の特徴として挙げられる。

表1 便利蜂中関村店の時間帯別の利用者数

9:00-10:00				10:00-11:00				11:00-12:00				12:00-13:00			
	男性	女性	合計		男性	女性	合計		男性	女性	合計		男性	女性	合計
20未満	0	0	0	20未満	0	0	0	20未満	0	0	0	20未満	0	0	0
20代	9	10	19	20代	7	7	14	20代	15	14	29	20代	21	11	32
30代	19	12	31	30代	17	11	28	30代	26	10	36	30代	30	5	35
40代	6	1	7	40代	7	0	7	40代	5	0	5	40代	4	1	5
50代	2	0	2	50代	5	1	6	50代	3	0	3	50代	1	0	1
60歳以上	0	0	0	60歳以上	0	0	0	60歳以上	0	0	0	60歳以上	0	0	0
合計	36	23	59	合計	36	19	55	合計	49	24	73	合計	56	17	73

15:00-16:00				16:00-17:00				17:00-18:00				18:00-19:00			
	男性	女性	合計		男性	女性	合計		男性	女性	合計		男性	女性	合計
20未満	0	0	0	20未満	0	0	0	20未満	0	0	0	20未満	0	0	0
20代	6	7	13	20代	6	4	10	20代	8	3	11	20代	10	10	20
30代	12	6	18	30代	13	6	19	30代	10	6	16	30代	15	5	20
40代	14	0	14	40代	5	0	5	40代	7	0	7	40代	7	0	7
50代	0	0	0	50代	3	0	3	50代	3	0	3	50代	0	0	0
60歳以上	0	0	0	60歳以上	0	0	0	60歳以上	0	0	0	60歳以上	0	0	0
合計	32	13	45	合計	27	10	37	合計	28	9	37	合計	32	15	47

(現地調査をもとに筆者作成)

3. 便利蜂

筆者は2025年3月に、北京市のオフィス街に位置する便利蜂中関村店において現地調査を実施した。当該店舗はオフィスが集積する都心部に立地しており、中国のオフィス街におけるコンビニの代表例の一つである。

時間帯別の利用者数を観察した結果(表1)、来店者は通勤時間帯および昼食時にやや増加する傾向が見られたが、それ以外の時間帯でも一定数の利用が確認された。利用者の年齢層は20～30代が中心で、特に30代男性の割合が高かった。これは、当該地域にIT企業や研究機関が多く集積し、若年層の会社員が多数働いていることと関係していると考えられる。

オフィス街におけるコンビニでは、コーヒーや飲料、軽食といった短時間の買い物が中心であり、中関村店に



写真1 便利蜂のロボット
(筆者撮影 2025.3.13)

においても、温かい惣菜や冷凍食品の人气が高かった。また、立地の特性上、セルフレジやスマート端末の導入が進んでおり、AI技術を活用したロボット(写真1)が設置されており、効率的な購買体験が提供されている点も特徴的である。

このように、中

国の大都市におけるオフィス街立地のコンビニは、業務中の短時間利用や昼食需要に特化した店舗展開を進めており、極めて短時間で利用できる環境が整えられていることが明らかになった。

さらに、アンケート調査も実施した結果、購買される商品は飲料や軽食が中心であり、サービス内容に対する満足度も比較的高い傾向が見られた。一方で、ビジネス用途や健康志向に対応した商品・サービスへの期待も一部で確認された。

4. まとめ

日中両国におけるコンビニの立地展開は、都市の規模や通勤需要、人口密度などに大きく左右されている。中国における地域間の格差は大きく、小都市では個人商店が依然として主流である一方、大都市では多様な形態のコンビニが発展を続けている。特に通勤地帯は、利便性が重視される地域であり、コンビニの重点的な立地エリアとなっている。日本でも武蔵小杉駅周辺に見られるように、通勤需要の高い地域では駅周辺にコンビニが集中し、住宅地にはミニスーパーが補完的な役割を果たしている。

日中両国のコンビニは、同じ「便利さ」を提供する小売業態でありながら、都市構造、消費スタイル、発展の背景に応じて、それぞれ異なる進化を遂げてきたことが明らかとなった。

日中両国におけるコンビニの比較や、都市構造とコンビニの立地に関する考察については、本論文において詳述した。

(しょう いしん：2025年9月本学研究科・博士課程前期課程修了)

私は 2024 年 3 月に関西大学を卒業し、現在は鉄道信号メーカーに勤務しております。「信号」といっても、一般的によくイメージされる道路用交通信号機ではなく、ATC（自動列車制御装置）や踏切しゃ断機、連動装置といった、鉄道の保安装置を扱っています。私はルート営業なので、鉄道会社や施工会社との交渉や見積、納期などの調整を行い、製品を手配することが主な仕事です。お客様のニーズにできるだけ応えて信頼を獲得しつつも、生産部門に負担をかけ過ぎず、かつ原価率も重視するため、常に多角的思考が求められています。しかし、鉄道という巨大な交通インフラの安全に貢献できているため、スケールを感じられる仕事でもあります。

大阪での新しい生活への期待を胸に 2020 年 4 月に関西大学に入学しましたが、当時は COVID-19 が猛威を振るっており、入学式は中止、新潟県の実家でオンライン授業を受講する日々が続いていました。元から地理学・地域環境学専修に入りたくて文学部を選びましたが、目玉であるフィールドワークが体験できず、むずがゆい気持ちで日々を享受したのをよく覚えています。しかし、秋学期から対面授業がほぼ復活し、画面越しでしか見たことのなかった地理学の諸先生方に初めて会えた時は、あたかも有名人に遭遇した気分でした。

個人的に印象に残っているのが、3 年次の出雲巡検です。聞き取り調査や調査対象の選定、アポ取り、GIS による地図作成などを一から自分たちで行いました。まさに 1・2 年次で培った地理学的素養を卒論前にアウトプットする良い機会だったと言えるでしょう。私たち交通班は報告書の作成が遅く、クリスマスイヴに居残りで作成した苦い記憶があります。しかし、この頑張りが後述の卒論執筆において大いに活かされました。4 年次では土屋純先生の下で「コンパクトシティ形成における LRT がもたらす役割とは一宇都宮芳賀ライトレール線を例に—」というテーマで卒論を執筆しました。宇都宮芳賀 LRT の開業日は 2023 年 8 月 27 日と丁度卒論執筆の途中でデータが少なかったため、現地調査による新たなデータの収集や他都市の事例との比較に努め、最新情報には常にアンテナを張っていました。また、当時はお金がなかったため、在来線で行き来したり、提出メ切間近には何度も徹夜したりするなど、ギリギリな日々を送っていましたが、卒業式翌日に土屋先生やゼミの仲間たちと会食をした時には既に笑い話となっていました。開業から 2 年経ち、芳賀・宇都宮 LRT のデータがかなり充実してきましたが、予想を上回る利用客によって初年度から経常黒字を達成したとのことで、地方都市の鉄道としては成功しているのではないかと思います。

学生時代からずっとそうでしたが、現在でも頻繁に



写真 1 旧南満州鉄道本社



写真 2 鴨緑江断橋（中朝国境）

津々浦々を旅行しています。特に、3 年次のベトナム研修をきっかけに海外への興味が増し、経済的に余裕のできた現在では海外の訪問頻度が多くなりました。2 月には中国東北部を訪問しました。まずは黒竜江省ハルビン市に降り立ち、731 部隊の展示館やロシア文化の影響を受けた街並みを歩きました。-20℃という Dw 気候の冷たい洗礼を浴びた後は、寝台列車と高速鉄道で遼寧省大連市や丹東市へ。旧南満州鉄道本社（写真 1）をはじめとした日本統治時代の遺構や北朝鮮との国境にかかる鴨緑江断橋（写真 2）などを訪れました。丹東市では北朝鮮国営レストランで冷麺をいただきましたが、この店で広東省から旅行に来ていた方と仲良くなり、今でも連絡を取り合っている仲です。（余談ですが、第二外国語で履修した中国語が大いに役立っています）

学部生の方々には、まだ卒論テーマを決められていない方もいらっしゃるかと存じます。そのような時は、好きな地域や面白いと思った地理学の講義など、自分の興味から連想ゲームのように思考を繋げていくと、自分が本当にやりたいことに辿り着くかもしれません。やりたいことへの思案は、この先卒論や就活以外においても役に立ち、人生の指針に繋がると思いますので、是非とも試してみてください。皆さまの大学生活が花咲いたものとなるよう、心からお祈りしております。

（うえの そうあ：大同信号株式会社、2024 年 3 月卒業）

■ □ 1 泊バス巡検報告 □ ■

播磨の自然と人文

戸田 咲良・中川 涼介

5月10日から11日にかけて、姫路・赤穂方面でのバス巡検が行われた。1日目の朝、集合場所の姫路駅に到着すると、まず目に飛び込んできたのは、駅前の広々としたフリースペースと、オープンな空間を活かしたイベントのにぎわいである。近年の再開発により姫路駅周辺では歩行者空間が整備され、都市のにぎわい創出が進んでいることを肌で感じた。一方で、駅を離れ姫路城へと向かう商店街では、駅前とは対照的に空き店舗やシャッターの下りた店が目立ち、にぎわいが中心市街地の一部に偏在していることがわかる。再開発の光と影、あるいは都市機能の再編に伴う地価や人口の偏在を実感できる場面であった。

姫路城周辺で昼食をとった後、自由時間には姫路城を見学した。現存天守としては日本最大規模を誇る姫路城は、白鷺城とも称されるその美しさから国内外の観光客に人気を博している。世界文化遺産としてのその荘厳さに感動を覚えるとともに、その背後にある「軍都・姫路」の歴史を想起した。現地で印象的だったのは、自由時間中に訪れた姫路市立美術館の建物である。この美術館は、かつての第10師団兵器庫として使われていた赤レンガ建築をリノベーションしたものであり、現在は市民がフランス絵画に親しみ、カフェで憩う空間となっている。都市の歴史的資源が、用途を変えながら市民に継承されており、姫路城もまた、こうした軍都としての時代と、戦後復興の中で文化財として守られてきた歴史のレイヤーを背負っている。

フィールドワークとは、地図や資料からは見えてこない都市の質感や時間の堆積を、その場に立って身体的に理解する営みである。再開発による空間の変化、にぎわいの偏在、歴史資源の活用と継承といった要素が交錯する姫路のまちは、都市を読み解く格好の題材であった。最終的に訪れた兵庫県立歴史博物館では、こうし

たまちの変遷や文化の蓄積について多角的に学び、1日目を終了した。

2日目は、姫路駅南口のロータリーに集合し、バスで赤穂方面へと向かった。国道250号線を西に進む中、たつの市や相生市の辺りでは、車窓から穏やかな海が見え隠れした。

道中、赤穂市南東部に位置する坂越集落に立ち寄った。坂越集落は西廻り航路の寄港地として栄えた港町であり、ここから塩を中心とした赤穂の名産品が各地へと送られていた。現在も歴史的な町並みが残されており、昔ながらの風情が静かに漂っていた。

坂越集落を出発して間もなく、赤穂市立海洋科学館に到着した。赤穂塩の製造過程について説明を受けた後、実際に塩づくりを体験した。赤穂塩は、干潟を防潮堤で囲い、海水をコントロールし、干満の時間に関係なく効率的に作業を行う「入浜式塩田」という方法で作られており、江戸時代の日本における主要な製塩法として赤穂から全国へと広まった。体験後は、塩や海洋に関する館内の展示を見学した。

次に訪れたのは、揖保乃糸資料館である。揖保乃糸は言わずと知れたたつの市の名産品であるが、小麦粉の質や原材料、めんの細さ、製造時期によって種類が細分化されていることを初めて知った。資料館では昼食もいただいたが、中でもそうめんを使った巻き寿司が絶品であった。

その後、たつの市へと移動し、伝統的建造物群保存地区に位置する、うすくち龍野醤油資料館を訪れた。元ヒガシマル醤油本社の社屋を使用したレトロな資料館であり、風味が穏やかな淡口醤油の生産過程や歴史について学ぶことができた。最後は、龍野の城下町を自由に散策した。龍野城は城下町全体を俯瞰するかのようになり、龍野城で弓道を体験したり、城下町で醤油のソフトクリームを味わったりと、それぞれが思い思いに楽しんでいた。

2日間の巡検を通して最も強く実感したのが、「歴史や文化の継承」がいかに大切にされているかという点である。姫路城や坂越集落に代表されるように、伝統や景観を維持しながら歴史を守り伝える姿勢が随所に感じられた。また、素麺や醤油など、揖保川の水運を利用して作られる地元の名産品からは、地域の特色と自然の恵みを存分に感じ取ることができた。

(とだ さくら・なかがわ りょうすけ：本学3年生)

新専修生からの
ひと言

荒木一成

こんにちは。私は自然や散歩が好きで地理学専修を選びました。趣味はバイクでよく友達とツーリングしています。人と話すことが好きなので、話しかけてください。

飯田汐里

はじめまして、今年から地理学専修に所属することになりました。色々な場所に旅行してご当地グルメを食べ歩いたりするのが大好きです！これからよろしくお祈りします！

今西泰光

新専修生の今西泰光です。地理という学問に対して今の時点で個人的に思うことは、幅広い視野を得ることが出来、その広い視野はこれから必要になっていくものということだと思います。よろしくお祈りします。

上山佳典

中学生の頃から地理や歴史などの社会科科目が好きで、「好きな科目をもっと学びたい」と思い、地理学専修に入りました。巡検を特に楽しみにしています。よろしくお祈りします。

上田愛実

今年度から地理学・地域環境学専修への分属が決まった上田愛実です。以前より地理に興味があったので、この専修で更に知識を深めていきたいと思っています。これからよろしくお祈りします。

上山結生

ひそかに目標としていた、「姫路市の巡検資料に記載されていた名物をできるだけ多く食べる」を、どろやきとアーモンドトーストを食べることで達成できてうれしかったです。

江崎友哉

高校までとの地理とは違った製図などの学びについて自分の目的にあった地図が描ける楽しさもある一方、操作について不安もあるので頑張って習得していきたいと思っています。

岡田渥生

自分自身、図書館で各県の道路地図を見ることが好きでかつ、歴史地理にも興味があります。この3年間で地理について様々な知見を深めていきたいです。

奥津光晴

こんにちは。私は去年、



地誌学などの授業を履修して地理に興味を持ち、この地理学・地域学専修を選びました。これから様々な地理について学んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

尾田結海

私は、旅行をすることが好きで観光業に興味があり、地理学を通して普通に観光地に行くだけでは気付けないことを学びたいためこの専修に決めました。これから3年間よろしくお願いします。

小田千悟

高校のころ果汁グミのブドウ味しか食べてなかったのが、オレンジ味に挑戦することが大学での目標です。

木村紫野

地理学専修に所属してからまだ2か月ほどですが、バス巡検やグループでの調査研究など興味深いなど思えることがたくさんありました。これから地理学について学びを深めていきたいです。

栗田煌大

こんにちは。自分は旅行が好きで地理学専修に入りました。地理の分野としては、交通、流通の分野に興味があります。よろしくお願いします！

家古谷真優

景観や地域と人との関わりについて学んでいきたいです。これからよろしくお願いします。

小山田泰斗

はじめまして。新専修生の小山田泰斗です。私は昔から地図を眺めることが好きで地理について興味があったため、この専修に入りました。これからよろしくお願いします。

後藤拓人

こんにちは。一回生の時に受けた自然地理学の授業で地理に興味をもってこの専修を選びました。自然地理、特に山の地形や植生などに興味があります。よろしくお願いします。

須田旺来

今年から地理学専修で学べることを嬉しく思います。地理学に関してもあまり詳しくありませんが、地理学専修でのいろいろな経験を通して、より詳しくなれたらと思っています。

高松美実

地理学・地域環境学専修に所属することができて嬉しいです。古地図を見ながら散歩することや星を見ることが

2024 年度ベトナム研修

前谷 駿輔

2025 年 3 月 8 日から 16 日にかけて、8 泊 9 日のベトナム研修が行われた。今回のプログラムでは、私たちがベトナムを訪問するだけではなく、2 月下旬にベトナム国家大学ハノイ校地理学部の教員・学生のみなさんが来日され、大阪・京都・奈良などの関西近郊の巡検を行った。その際、私たちもグループに分かれて巡検に参加し、案内した。

1 日目の 3 月 8 日、ベトナム航空の飛行機で関西国際空港を日本時間 10 時に出発し、ベトナム時間 13 時 30 分にハノイ・ノイバイ空港に到着した。空港では、ベトナム国家大学ハノイ校地理学部の学生が出迎えてくれ、バスでホテルまで移動した。荷物を置いた後に、ホテルからレストランへ向かった。レストランではバイキング方式で、麺料理のフォーやもち米料理のソイといった様々なベトナム各地の料理に舌鼓をうった。また、ベトナムの学生におすすめの料理を聞いたり、取ってきた料理に対してどのような材料や味がするのかを聞いたりして、ベトナム料理を楽しみながら現地の学生と交流を深めることもできた。

2 日目は、ハノイ旧市街で徒歩巡検を行った。午前中は、「旧市街文化交流センター」とベトナムの宗教施設である「ディン」を訪問した。交流センターでは、ハノイの成り立ち、中国の植民地であった北属期、フランス統治時代、ベトナム戦争前後、現代における旧市街などハノイの歴史と発展について、地図、模型などの資料を見学しつつ学べた。ディンでは、ベトナムの伝統的な先祖崇拝を見学し、ベトナムが中国文化圏に属していたとわかり、日本との類似性を感じた。午後は、グループに分かれて行動し、私は国立歴史博物館を訪問した。博物館では、古代から中国の植民地から独立を果たした李王朝について特に展示がされており、ベトナムの外国との関わりについても学んだ。その後合流し、水上人形劇を観劇した。水上人形劇は、ベトナムの農村で行われてきた伝統的な演劇であり、ベトナムの伝統文化に触れることができた。

3 日目は、ベトナム国家大学ハノイ校へ訪問し、ハノイ市街のバス巡検を行った。ハノイ校では、地理学部の教員の方にベトナムにおける GIS の活用について講演していただいた。観光地を地図上で表し、場所を選択するとその場所

の景色を 360 度カメラで撮影された画像を見られるなど観光分野等ですでに活用されていることが印象的だった。その後、ベトナムの伝統的な村であるドンラム村でフィールドワークを行った。ドンラム村は、日本の JICA による支援が行われており、ベトナムの伝統文化や文化財を継承しつつ、観光開発がされていた。集落の外と思われる場所には、墓地もあり、ベトナムの死生観を観察できた。

4 日目は、世界複合遺産である「チャンアン景観関連遺産」を見学した。7 時半にホテルを出発し、午前には雄大なカルスト地形がみられる Trang An を見学した。そこでは、1 グループ 3 から 5 人に船頭さん 1 人がつき、小さな舟でゆっくり進んだ。そのため、自然景観を詳しく観察できた。道中にはかつての王朝の建国に関わる人を祀る寺院があった。昼食をとった後は、ハノイの前に都が置かれた Hoa Lu 遺跡を見学した。李王朝の建国からハノイへの遷都など、王朝期の歴史を深く知り、自然と古代ベトナム人の関わりについて、学んだ。

5 日目は、12 時にハノイ・ノイバイ空港を出発し、14 時にホーチミン・タンソンニャット空港に到着した。ホテルに到着し荷物を置いた後に、ベントイン市場、2024 年末に開業した地下鉄であるホーチミンメトロを見学した。ベントイン市場は、ハノイの市場とは異なり、日本語で声をかけられ、驚いた。ベントイン市場では、ベトナム語以外の様々な言語が飛び交っており、観光客向けの市場になっていると感じた。ホーチミンメトロ 1 号線は日本の支援により作られた。乗車方法は、チケットレスで、最近日本でも導入されているクレジットカードを利用して乗る方式であった。開業して半年もたっていないため、利用者は多くなく、乗り方のわからない人が係員に乗り方を尋ねていた。そのため、まだまだ新しい交通手段が浸透していないと感じた。

6 日目は、ホーチミン市郊外のカンゾー県でバス巡検を行った。7 時半にバスでホテルを出発し、フェリー乗り場へ移動した。バイクや車、人などがたくさん列をなして待っており、フェリーは多くの人々の足となっていた。遠方に建設中の橋を見ることができ、貴重な体験となった。バスでの移動中、車窓からではあるものの、塩田やエビの養殖池などがうかがえ、ベ

トナムのデルタ地域で盛んな産業を観察した。マングローブ林やベトナム戦争跡を見学できるモンキーアイランドを訪れた。マングローブ林には、ベトナム戦争時の様子を示した展示が行われており、戦争の過激さをうかがえた。また、戦争後に復活したマングローブ林を観察し、植物の成長の早さを実感した。

7日目、ホーチミン市の隣、ビンズオン省にあるトゥーザオモット大学を訪問した。2度目のベトナムの大学生との交流のほか、ベトナム最大の豆乳生産会社である Vinasoy 社の工場見学を行った。3日目に訪れたベトナム国家大学とは異なり、国際交流に力を入れている大学で、私たちが訪れた際にもちょうどフィリピンからの短期留学生も来ていた。工場見学では、製造している場面を見ることはできなかったが、製品梱包や工業廃水を微生物による処理を見学した。昼食では、トゥーザオモット大学の学生と交流し、ベトナムや日本の文化の話だけではなく、研究内容についても話し、刺激を受けた。

ベトナム最終日の8日目は、夜の便で日本に帰国することになっており、夕方まで自由行動

であった。私は、ベトナム戦争の被害を伝えるベトナム戦争証跡博物館を訪れた。博物館では、ベトナム戦争で戦死した人や被害を受けた人である被害者個人に注目し、どんな人生を送ったのか、どのような被害にあったのか紹介されており、ベトナム戦争の悲惨さを感じた。「悲惨さ」と一言で済ますのは簡単であるが、教科書で見るとような出来事を詳しく知り、平和について考えるよい機会になった。その後、ホテルから空港に移動し、天候により飛行機が遅れるといったハプニングがあったものの、3月16日の7時ごろに帰国した。

今回のベトナム研修で、日本とは異なるものの類似性のある文化・歴史をもつベトナムについて理解を深められた。特に、ハノイとホーチミンという2つの都市を訪れることで、現在のベトナムの状況だけでなく、これからベトナムがどう変化していこうとしているのかを理解した。そのことから、ベトナムが持つ豊かな自然、伝統的な文化、歴史等についてより深く学びたいと思った。

(まえたに しゅんすけ：本学大学院博士課程前期課程1回生)

好きです。柔軟な思考で物事を学んでいきたいです。これからよろしくお願いします。

田中歩汰
よろしくお願いします。

富永稜久
初めまして、私は富永稜久といいます。愛知県の清須市出身です。清須市といえば清須城が有名ですが、ご存じでしょうか。私の趣味はゲームをすることと野球観戦です。これからよろしくお願いします。

中村瑠夏
はじめまして。昔から自然に触れることや旅行が好きだったため、この専修を選びました。分からないこともありましたが、たくさんの方を学び、楽しんでいます！

永峯晴和
昔から地理に興味があったので地理学専修を希望しました。フィールドワークを通して見聞を深められたらと思っています。よろしくお願いします！

西浦智哉
地理学・地域環境学専修で学ぶ3年間を、人生の中でとても有意義だったと思え、またとても楽しかったと思うようにしたいです。よろしくお願いします。

野々村将太郎
こんにちは2回生の野々村です。私は歴史地理や都市地理に興味があってこの専修にきました。これから3年間地理のさまざまなことを学んでいきたいです。よろしくお願いします。

林谷映和
高校生のころから関西大学の地理学専修に入りたいと思っていたので、この度地理学専修に入ることができてうれしいとともにほっとしています。これからよろしくお願いします。

番匠航大
小学生の時から地理が好きでした。都市地理学に興味があります。よろしくお願いします。

坂東 聖
私は、特に日本の地域の歴史や特徴などについて興味があります。旅行が好きで色々な場所に行ってみたくと思っています。将来、47都道府県全て周りたいたいと思っています。

平沢律希
旅行と登山が好きで、地理学専修に志望しました。高校では地理を選択していませんでした。



「ベトナム国家大学ハノイ校」での集合写真（2025年3月10日）

第7回千里地理学会案内

日時：2025年12月13日（土）14時00分～17時 総会・懇親会17時～20時

場所：関西大学千里山キャンパス第1学舎5号館（E棟）E602

千里地理学会 14時00分～17時

- 1) 大学院博士課程前期課程院生：松山市実習調査中間報告
- 2) 石川 雄一（大阪商業大学、関西大学非常勤講師）
- 3) 松井 僚平（関西大倉高校）

★懇親会を学内施設で開催いたします。詳細は専修のウェブサイトで連絡します。

ふるってご参加ください。懇親会参加の方は12月6日（土）までに教室メールアドレスにお申し込み下さい。

たが、これからたくさん
のことを学んでいき
たいと考えています。
よろしくお願いします。

藤本航平

地理については中学の
時から、非常に興味を
持っていて、文学部を
選んだ理由も地理学・
地域環境学専修がある
ためです。これからも
この専修で意欲を持っ
て学んでいきたいで
す。

牧 亮佑

この度地理学・地域環
境学専修に入りました
牧です。小さな頃から
地図を眺めたり、架空
の都市を想像したりす
るのが好きで、成長と
ともに自然と地理学に
興味を持ちました。よ
ろしくお願いします。

孫田琉一郎

高校では選択教科の地
理で10番背負ってま
した、ポジションは大
阪で得意なプレーは特
産品と都市です。この
専修では全国（フィ
ールドワーク）目指し
てます。

松本航海

松本航海です！入学の
時から地理学・地域環
境学専修に入りたいか
ったので仲間に入るこ
とができてうれしく思
います。これからよろ
しくお願いします！

村島改征

自然と都市、地域のし
くみを学び、広い視野
で物事を考えられる力
を身につけて行きたい
と思っています。これ
から三年間よろしくお
願いします。

鷲尾也哉子

こんにちは。地理の中
で歴史地理学に興味
があります。様々な角
度から地理を学んでい
きたいと思います。よ
ろしくお願いします。

宗 宝児

少し外に出て、地元
の人たちと話しながら、
山や川、村の物語を
ノートに書き留める。
岩石の成分を調べたり、
川の流速を測ったりし
て、データから大地の
秘密を読み解いてい
く。地理は、世界の
不思議さを理解させて
くれる。

厚東 隆

久しぶりに自分の頭を
使っているような刺激
的な毎日を送ってい
ます。新しい環境で期
待も不安もありますが、
貴重な今を無駄にせず
がんばりたいと思い
ます。よろしくお願いします。

藤村航輔

今年から3年次編入で

卒業論文及び修士論文一覧（2025年3月・9月、卒業・修了）

〔卒業論文 2025年3月卒業〕

生森 滝也	日本における大型商業施設の変遷と立地特性
井上 裕貴	兵庫県園田地域における競馬場の影響と地域変遷について
井村 光	小・中学校の校歌に歌われる地域性 ―三重県北勢部の3都市を対象に―
大東 若菜	滋賀県沖島での暮らしにおける課題と考察 ―買い物環境に着目して―
勝見 創太	繊維卸商団地の再開発事例 ―箕面船場地域を対象に―
川口 祐輝	寺内町と町屋の景観上における価値と保存について ―富田林寺内町を事例にして―
里見 玲	草津市の変遷 ―都市化の過程や土地利用の変化に着目して―
鈴木 美里	輸グキ生産地の持続可能性に対する地理学的研究 ―愛知県田原市を事例として―
瀬木優美子	大阪府における商店街の実態と今後の方向性 ―大阪市住之江区粉浜商店街を事例に―
立岡なつみ	神戸市東灘区岡本地区地車運行における地域構造変化と新規担い手の獲得
田中 利佳	神戸市、須磨ニュータウンにおける空き家問題
西山 奈菜	大阪市における長屋のコンバージョン店舗の集積とその要因 ―阿倍野区昭和町界隈を事例に―
平井 杏周	伝統野菜のブランド化に対する生産地の対応と現状 ―京都府京都市伏見区竹田地域を事例に―
藤田 愛子	JR西日本新快速電車の役割と兵庫県内の停車駅における地域発展
前谷 駿輔	現代における巡礼路の価値認識と景観特性 ―高野参詣道町石道を事例として―
山本 奈穂	住宅地景観の分析を通じた災害リスク軽減の可能性 ―大阪府枚方市の地理条件を踏まえた事例―
吉村虎太郎	北陸新幹線延伸開業における敦賀市の観光業 ―延伸開業の影響と新たな需要について―
和谷 亮	南堀江一丁目の商業空間としての発展とその原因
藤浪可奈恵	神戸市における夜間景観の特徴
森本 桜子	分散型ホテルが地域へ与える効果 ―SEKAI HOTELを事例として―
朴 智娜	大阪観光における「なにわ」の活用状況と外国人観光客の大阪文化への理解について

〔修士論文 2025年9月修了〕

肖 逸欣	中国・京津冀地域におけるコンビニエンスストアの多様化に関する地理学的研究
------	--------------------------------------

教室だより

■令和7（2025）年度の地理学・地域環境学専修に所属された2回生は36名、編入生が2名でした。大学院博士課程前期課程には1名（内部入学者）が入学しました。9月末現在、2回生は36名、3回生は28名、4回生は34名、博士課程前期課程8名、博士課程後期課程3名、研究生3名の計112名となります。

■恒例の5月の「地理学・地域環境学実習」のバスによる1泊巡検は、5月10日（土）～11日（日）に播磨地域（姫路市、赤穂市、たつの

市）において一泊二日で実施しました。

■大学院合同演習は、昨年と同様に関西大学千里山キャンパスで7月19日（土）に実施しました。大学院生10名、研究生3名の発表がありました。

■教員の外国出張はありませんでした。

■集中講義2025年7月26日（土）、28日（月）、29日（火）に大学院博士前期課程向けの「人文地理学特別研究」に吉田国光先生（立正大学准教授）にご出講いただきました。

〈同窓会事務局ニュース〉

- ・12月13日（土）17時より2025年度同窓会総会を開催いたします。
- ・2016年の卒業生に対して、事務局からメールによる消息調査をおこなっています。事務局が把握し該当する卒業生の方にはメールを送付しておりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。
- ・同窓会通信の執筆寄稿を募集しております。1ページ1600字程度、半ページ800字程度、写真等も可です。執筆いただける方は教室メールアドレス[kandaichiri@gmail.com]までご連絡ください。また、会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスをお願いいたします。

関大地理同窓会 令和6年度会計報告

(収入)	(円)
一般会費（3名）	3,000
新入生会費（31名）	31,000
長期割引会費（2名）	10,000
終身会費（2名）	10,000
卒業生会費（21名）	42,000
寄付（2名）	15,000
計	111,000
(支出)	(円)
千里地理通信90号発送	9,964
印刷用ラベル	3,630
新歓コンパへの補助	24,200
院生室整備費	220
院生室PC廃棄	1,870
同窓会事務局アルバイト	5,000
計	44,884
(収支残高)	(円)
前年度繰越金	488,602
収入－支出	66,116
計	554,718

*千里地理通信91号の印刷代・発送代は大倉基金から支出した。

地理学・地域環境学専修に入学しました、藤村航輔です。2年間という短い期間ではありますが、他の学生に負けぬよう深く学びたいと思います。よろしくお願い致します。

橋本美結

地理学の魅力に惹かれて専修に入りました。これから多くを学び、視野を広げながら、地域に貢献できる力を身につけていきたいと考えています。よろしくお願い致します。

修了生からの一言

肖 逸欣

巡検や地図づくりを通して、地理学の魅力と深さを実感することができた2年間でした。支えてくださった先生方、そして素敵な仲間たちとの出会いに恵まれ、充実した留学生生活を過ごせました。本当にありがとうございました。

秋の日帰り巡検のご案内

関西大学地理学同窓会（旧・関西大学地理学研究会）の恒例行事ともなっている教室の日帰り巡検を、2回生の案内を中心にして、以下の要領で実施します。今回の巡検は、西宮市と宝塚市を対象に、阪神地域の自然、産業、歴史を見て回ります。西宮市と宝塚市の間は阪急電車を利用します。昼食は西宮ガーデンズ付近で各自とります。

参加を希望される方は、9月27日（土）までに氏名、メールアドレス、携帯電話番号を同窓会事務局（kandaichiri@gmail.com）までお知らせ下さい。

テーマ：西宮と宝塚の自然と人文

日程：2025年9月28日（日）9：30～17：00頃

集合：西宮市中央公民館・講堂（6階）【阪急西宮北口駅より徒歩約3分】

9時30分（阪急大阪梅田駅9：00発⇒阪急西宮北口駅9：16着、阪急大阪梅田駅8：55発⇒阪急西宮北口駅9：10着、があります）

コース：西宮市立中央公民館（西宮についての説明）9：30～阪急西宮北口周辺～阪急西宮ギャラリー～阪急西宮ガーデンズ（昼食、各自）～阪急宝塚駅・1階（改札を出てエスカレーターで降りる）【**再集合：13時**】（西宮北口駅12：38発の電車に乗れば間に合います）～宝塚駅周辺～花のみちセルカ～宝塚大劇場～宝塚市立文化芸術センター（宝塚についての説明）・手塚治虫記念館～宝塚市立文化創造館～川面神社～清荒神参道商店街～現地解散17：00頃

費用：電車代（阪急西宮北口駅～阪急宝塚駅200円、集合前・解散後の移動）、施設代1000円、昼食代

教員責任者：土屋純、筒井由起乃

高等学校における現学習指導要領は、2022年4月1日以降に高等学校の第1学年に入学した生徒から年次進行により段階的に適用されている。したがって、今年度大学に入学した学生から現学習指導要領での地理歴史科の科目を履修していることになる。

現学習指導要領での大きな変更点は、「地理総合」が標準単位数2単位の必修科目となったことである。従前の学習指導要領では「地理総合」に相当する「地理A」は標準単位数が2単位の選択科目であった。2点目は現学習指導要領で「地理探究」の標準単位数が従前の学習指導要領の「地理B」から1単位減って3単位となったことである。

さらに現学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を強調している。その際の留意点として「1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するのか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。」としている。

このような変革期に、ご縁があり今年度から関西大学の春学期に「地理歴史科教育法(一)」を担当させていただいております。この授業は2年生以上の学生が履修しているため、全員、従前の学習指導要領で地歴科を履修した学生となる。初回の授業で、地理Aや地理Bの履修状況を学生に尋ねてみると、木曜3限と5限の2講座を合わせた回答者51人のうち、地理A・Bの両方の履修者が4人、地理Aのみ履修者6人、地理Bのみ履修者4人の合計14人、地理履修者率は27.5%であった。

私が担当した地理歴史科教育法(一)は15時間の授業のうち8時間が模擬授業で、15～20分程度の模擬授業を全員に1人で実施してもらっている。模擬授業は地理総合、地理探究のどちらの教科書でも可として、単元も自由に選ばした。このような高等学校での地理履修者が多くない状況での模擬授業には多少の不安があったが、それは杞憂であった。まず、学生のなかには、課題を与えてグループワークによる話し合い・発表・それに対する先生(模擬授業者)のフォローやアドバイスなど、うまくまとめ上げる学生も少なからずいた。これはおそらく、教職科目で、現学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」で発問の仕方やグループワーク、アクティブ・ラーニングの視点に立った改善授業を身につけた結果だと思われる。また、ICTを駆使して視覚的なパ

ワーポイントのスライドを作成する学生、書き込みやすい実用的な授業プリントを作成する学生もみられた。逆に以前にみられた板書中心の授業は激減している。

もう一つ模擬授業で特徴的なことは、学生が行った模擬授業の単元が、地球環境問題、民族・宗教、日本の気候、世界地誌(特にインド)に偏り、地形、気候、農林水産業、鉱工業、人口、都市・村落の系統地理分野はほとんどなかったことである。これは、高等学校で地理を履修しなかった学生にとって馴染みのあるのが、「現代社会」や「世界史」、地誌中心の「中学地理」などで学習している地球環境問題、民族・宗教、日本地誌、世界地誌であり、系統地理分野は未知の分野であるからだと考えられる。

さて、高等学校の教育現場では、私がかつて勤務していた高等学校の状況からの推定であるが、高等学校で地理を履修しなかった日本史や世界史、政治・経済、倫理の教員は、「地理歴史科教育法(一)」の受講生と同様、結構多い。2022年度からの地理総合の必修化により、すべての高等学校で地理を担当する教員を増やす必要があるが、現状は高等学校で地理を履修しなかった歴史関係や公民科の教員が地理の教材研究を一から熱心に取り組んで教えられているケースをみている。しかしこのケースでは「地理総合」の授業を担当することはあるが、系統地理分野が多くを占められ、大学受験にも直結する「地理探究」の授業を担当することは、非常に厳しいところがある。実は私は2021年3月に私立の中高6年一貫校を定年退職したが、このように現場での地理教員(特に地理探究の教員)の不足で、退職後もその学校で非常勤講師として「地理探究」など地理の授業を担当している。そして私の周りにも同じように、定年退職した地理の教員が非常勤講師になっているケースがみられる。定年退職者による地理の非常勤講師が勤務できるのは、年齢的なことを考えると数年であることなどから、大学や大学院で地理を専攻している馬力のある、多くの可能性をもつ学生が、近い将来、地理教員として勤めることが望ましいであろう。地理学教室から多くの地理専門の教員が誕生することを願っている。

(おかもり ひらく：関西大学非常勤講師、大阪教育大学非常勤講師、清風南海学園非常勤講師)

千里地理通信 第93号

2025年9月21日 発行 (300部)

関西大学地理学・地域環境学教室
関大地理同窓会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

編集担当：筒井由起乃

TEL：06-6368-1121 (内線4890：大学院生室)

e-mail：kandaichiri@gmail.com

http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪 00970-4-81149